

学校経営方針 (中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点 (短期経営目標)
<p><b>1 目指す教育</b> 日本三大農業教育発祥の地「京都府農牧学校」以来の歴史と伝統を受け継ぎ、「自主」「規律」「誠実」を校訓とし、心身ともに健康で、自主の精神に富み、根気よく学ぶ力と豊かな情操を身につけた有為な社会の形成者を育成する。</p> <p><b>2 目指す学校</b> (1) 地域と共に歩む学校、地域を支える人材を育成する学校 (2) 「土から食卓までを結ぶ」新たな専門教育を開く学校</p> <p><b>3 目指す生徒</b> (1) 夢と希望を持ち、自ら学び自らを高め、未来を見通し拓く生徒 <b>【展望する力】</b> (2) 豊かな感性、人権意識、道徳心を身につけ、社会を担う責任を自覚し、自然、人、社会とつながる生徒 <b>【つながる力】</b> (3) 自らの目標を実現するため、失敗を恐れずに挑戦し、強くなやかな意志と健康でたくましく生きる生徒 <b>【挑戦する力】</b></p>	<p><b>【成果】</b> (1) 生徒の生活実態に応じた組織的な指導の推進、府教委指定地域創生推進校「リスタ須知・夢無限大 ∞」を軸とする学習指導、進路指導により、個々の生徒に応じた粘り強い生活指導と学力向上、希望進路実現へ取り組んだ。 (2) 「ハイスクール起業チャレンジ実践校」として食品科学科におけるの地元食材を活かした加工品開発や普通科における探究的な学習、地域研究の取組等を発信するとともに、全校体制による「京丹波食の祭典」との共同開催「須高感謝祭」をはじめとする地域との連携活動を推進した。 (3) 「須知高校教育活性化協議会」が発足し、京丹波町からの交付金による具体的な支援策をはじめ、「京丹波町における須知高校のあり方懇話会意見提言」の具現化がなされた。 (4) 継続的な生徒会本部の募金活動や地域でのボランティア活動とともに男子ホッケー部全国高校総体出場、日本学校農業クラブ全国大会における優秀賞獲得等の顕著な成果が得られた。 (5) 「須高通信」の発行、HPの更新、京丹波町CATV・新聞等による情報発信により、本校の教育活動に対する理解を広く促進するとともに、学校アンケート、授業アンケートを実施し、教育ニーズの受信にも努めた。</p> <p><b>【課題】</b> (1) 生徒が須知高校で自ら学ぶ意欲や学習習慣の定着を主体的に図り、自分の将来へのより高い志や目標を持ち、進路に対して積極的に挑戦・実現すること。 (2) 地域との連携や保護者からの信頼を基軸に、地域と共に歩み、地域に貢献する教育機関としての取組の進化を図り、規範意識やモラルの高い、心身共に健康な生徒の育成の取組をさらに進めること。 (3) 部活動への加入率を高めるなど諸活動の活性化に係わる生徒実態調査・研究に取り組み、学校の特色化・活性化を一層推進すること。 (4) 地元中学生が減少傾向にある中、将来構想の具現化と新たな本校の魅力化に努め、中学校との信頼関係を基に、定員を充足する志願者を確保すること。</p>	<p><b>本年度学校経営の重点 (短期経営目標)</b> <b>『地域創生推進校』『リスタ須知・夢∞(無限大)新たな歴史に向かって!! ~温かくて厳しい学びの場の創造~』</b></p> <p>(1) 「リスタ須知」5年間の成果を継承・発展させ、地域創生のモデル校を目指し、学力の向上と希望する進路の実現を図る。 ① 学科・コースの設置趣旨や目標を整理し、個々の生徒に実態に応じた適切できめ細やかな就職・進学指導により質の高い進路実績を構築する。 ② 地域を支える人材育成の観点から、京丹波町産業ネットワークをはじめとする地元企業や大学等と連携した、とりわけ普通科におけるキャリア教育のあり方を研究し、推進する。 ③ 学習に主体的・探究的に取り組む態度の育成を主眼とする授業・実習における指導方法の工夫・改善と評価規準に基づく適正な評価を実践する。 ④ 学力の基盤である「ことばの力」の育成とともに、須知高校ポイント制度や「須高英検」などの継続的な実施と資格取得を奨励する。</p> <p>(2) 「ハイスクール起業チャレンジ実践校」の成果を踏まえ、地域の探求学習等を充実させ、食と農に係わる活動をより推進する。 ① 『土から食卓までを結ぶ』農業の6次産業化を目指した地域との学び～オール京都丹波にさらなる挑戦～により、加工品シリーズの開発に取り組むなど挑戦を加速化させる。 ② 地域の特性を踏まえた地域研究や京都府農牧学校の調査研究に取り組み、地域活性化の観点から、その成果を整理し、地域学としての活用を研究する。 ③ 農業クラブにおける「プロジェクト研究活動」を計画的に実践し、意見発表、農業鑑定競技とともに、日本学校農業クラブ全国大会入賞を目指し、指導を行う。 ④ 平成32年度スタートを目指した「普通科」・「農業の専門学科」及び「調理師養成に関わる家庭の専門学科・コース」の教育課程、教育計画を編成する。</p> <p>(3) 生徒指導と部活動等の充実を図り、学校の特色化を図る。 ① 生徒密着型・問題解決型の生徒指導を保護者との連携を軸に、継続して取り組む。 ② 部活動をはじめとする諸活動の活性化を図る方策について、生徒の実態調査や情報収集するなど、調査研究と実践に組織的に取り組む。 ③ 3年間を見通したルールやモラルを向上させる教育のあり方を研究し、体系的な実践に取り組む。 ④ 茶道や和知太鼓など伝統文化に係わる教育活動の継承発展を図る。</p> <p>(4) 地域と共に歩み、信頼される学校づくりを推進する。 ① 「須高感謝祭」を「京丹波町食の祭典」と共同開催し、須知高校全体の学習成果を発表する場とし、学校を地域に公開する。 ② 環境食育パートナーズスクール事業、地元小中学校等との連携活動など異校種間連携を積極的に推進する。 ③ 創立京都府農牧学校140年・郡立実業学校110年・須知高校70年記念式典等に係わる創立記念事業を同窓会等と連携し、成功させる。 ④ 新聞広報、京丹波町CATVなどによる教育活動情報を積極的に発信するとともに教育ニーズの把握に努め、定員を充足する志願者を確保する。</p>

評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題
1 教務部	学習意欲の向上と学習習慣の定着の取組	・学習意欲の向上を図る取組を推進する。		
		・学習習慣の定着を図る。		
	中途退学・原級留置の解消に向けた取組	・中途退学・原級留置の防止に向け、教科・担任・関係分掌と連携を図る。		
		・授業を大切に作る姿勢を徹底する。		
		・欠課・遅刻を防止させる取組を推進する。		
	教科主任会議を軸に教育内容等の検討	・教育課程を検討、充実させる。 ・基礎学力の定着に向けた取組を検討する。		
	定期考査等の円滑な運営	・教科担当者、担任と連携し円滑に運営する。		
	校務システムの活用	・校務システムによる教務関係の手続き（成績処理など）の安定した運用と活用を図る。		
		・諸帳簿作成機能の活用を推進する。		
	I C Tを活用した教育の推進	・I C T機器を活用した教育の情報化を推進する。		
	P T A活動の推進	・学校と家庭との連携を図り、P T A活動を充実し、行事への積極的な参加を呼びかける。		
	学校広報活動の推進	・「須高通信」の紙面充実に心がけ、見やすいH Pを作成する。 ・地元ケーブルテレビを活用する。		
	生徒募集活動の推進	・学校広報会議を軸に組織的な生徒募集活動を一層推進する。		
		・地元中学校との連携した取組を推進する。		
		・各種説明会の一層の工夫を図る。		
学習活動を支援する図書館活動	・学習活動に関わる資料を探しやすくするための資料案内を充実させる。			
	・利用者の興味・関心を深め図書館資料へ導く広報活動を行う。			
	・データ整備と検索環境の整備を進める。			

2 生徒指導部	規範意識の向上	規律ある生活の確立		
		公共心の醸成		
	安全・安心な環境の整備	いじめ・暴力を許さない		
		盗難・喫煙の防止		

2	生徒指導部		交通関係の事故や違反の防止			
		自主活動の活性化	学校祭、委員会活動、各種ボランティアの充実			
			部活動の活性化			
		家庭との連携	PTAとの連携			
問題行動のある家庭との連携						
3	進路指導部	進路指導の充実	各学年の進路目標を設定し、ここの生徒のニーズに応じた進路学習を展開する。			
			ガイダンスや進路相談等を通して生徒と向き合う密着型指導を行い、進路意識を喚起する。			
			学力分析を工夫し、効果的な教科指導・進路指導に資するデータとして提供する。			
			模擬面接、資料配布会、進路検討会などをタイムリーに開催する。			
	キャリア教育の充実	職業理解や学問研究ガイダンスを充実させ、具体的な行動を起こす機会を増やす。				
		京丹波町と連携し、キャリアアップ講座やインターンシップを充実させる。				
		社会人講師を活用し、志望理由やビジネスマナー、就職への心構えなどを指導する。				
	進路カウンセリングとキャリア教育の研究	ハイスクールオンラインを活用する手法を学び、進路相談等に生かす。				
		地元の学校現場の状況を知り、高校におけるキャリア教育を学ぶ。				

4	保健部	健康教育の推進	・日常的な取組に加え、「基本的な生活習慣と健康」、「性教育」等の講演を実施し、生徒の健康意識の向上を図る。			
		安全な学校環境整備	・保健・厚生委員会による安全・美化点検等の実施。			
			・日常の清掃活動等において積極的に取り組むように指導する。			
4	保健部	関係分掌と連携し教育相談の充実	・支援に必要な 生徒に対して、その生徒に応じた支援を担当・支援員・保護者・関係機関と連携しながら実施する。			
			・スクールカウンセラーを活用し、教育相談の充実を図る。			
	保健部	教職員・生徒への研修会の実施	・生徒理解を深めるための研修会を実施する。 ・救急法実技講習会を実施し、AEDの使用による緊急事態			

		の体制を整える。			
5 人権教育部	人権学習の推進と人権意識を高める取組の推進	・各学年ごとに人権学習を実施し、基本的人権に対する正しい理解と認識を育てる。			
		・生徒会人権委員会の活動を充実する。			
	就修学の保障と希望する進路の実現	・基礎学力保障の取組を進め、原留・中退の減少を目指す。			
		・経済的に困難がある生徒に対して援護制度を紹介し、その活用を促す。			
課題のある生徒に対する指導と支援の充実	・教育相談会議を定期的開催し、対応すべき生徒を早期に把握し、各分掌と連携して適切な指導支援を行う。				

評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題
6 農場部	農業クラブ活動をとおり、「科学性」「社会性」「指導性」を身につけさせる	・各種の発表会や競技会に向けた活動を組織的に推進し、全国大会入賞を目指す		
		・農ク府専門部の活動をとおり、クラブ活動の活性化を図る		
		・地域と連携した取組を推進する		
		・資格取得の充実を図る		
	「ハイスクール起業チャレンジ実践校」として、「食品科学科」の魅力を高める	・『土から食卓までを結ぶ』農業の6次産業化を目指した地域との学び ～オール京都丹波にさらなる挑戦～に取り組む		
		・産官学との連携により京都丹波の特産食材を活かした加工品シリーズの開発を目指す		
		・ハウエイテラス「京丹波味夢の里」へ参画した取組を推進する		
		・新たな販路の開拓をする		
	「食品科学科」の特色を活かした取組を推進する	・「京丹波●食の祭典」と共同開催している須高感謝祭を学習成果の発表の場として一層充実させる		
		・「学校林を活用した森林環境教育」の取組を推進する		
		・「環境・食育校種間連携パートナーズ事業」を推進する		
		・校種間連携を一層推進する		
6 農場部	食品科学科の将来構想を検討する	・「食と農に関する総合的な専門学科」の設置に向け検討する		
		・環境整備を行い、地域に開かれた農場を目指す		
	農場の環境整備や施設設備の充実を図る	・基盤整備を検討する		
		・環境整備を行い、地域に開かれた農場を目指す		

		・施設・設備の老朽化に対応した更新計画を検討する			
	食品科学科として一貫した生徒指導を行う	・関係分掌と連携し、服装指導や生活指導を重点的に行う			

評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題
7 第1学年部	・基礎的学力の向上	・授業に集中できる学習環境の維持。		
		・宿題や提出物を確実にこなし家庭学習の習慣化を図る。		
	・相互の人権の尊重	・適切な規範意識を涵養し全員が気持ちよく学校生活が送れるようにする。		
		・挨拶と会話で相互の親交を深め思いやりの心を育て、いじめを許さない雰囲気構築する。		
8 第2学年部	希望する進路の方向性を定め、その実現に向け、具体的な努力をさせる。	授業への取組、家庭学習の充実を図らせる。		
		模試や資格取得への挑戦により、自分の可能性と視野の拡大を図らせる。		
	社会の一員としての自覚と自律を重んじ、社会性を身に付ける。	基本的な生活習慣の確立を図らせる。		
		集団の一員として、場面に応じた態度・言葉遣い・身だしなみをとらせる。		
9 第3学年部	社会性を向上させる	・基本的な生活習慣を定着させる。		
		・学校行事や部活動など様々な行事を通じて、豊かな人間性を育ませる。		
		・社会人基礎力（社会に貢献できる力）をつけさせる。		
	進路を実現させる	・二者面談、三者面談を通して、学校、保護者、生徒の意思を統一する。		
		・進路指導部との連携をさらに深め、早期から計画的な進路指導を行う。		
		・家庭学習や自主学習の定着と継続を図る。		

評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題
10 学力向上・SA推進部	学力を向上させるための指導の充実	診断テストや模擬試験等の結果を多角的に分析し、教科指導力の向上を図る。また、教科主任会議等において弱点克服のためのアドバイスをを行う。		
10 学力向上・SA推進部		希望進路の実現に向けた3年間の進路サクセスストーリー（夢実現プログラム）を考案し、生徒のバイオリズムも考慮に入れ学力向上を図る。		

		国公立大学をはじめとする難関大学合格に向けた進学指導システムを開発する。また、ICT機器の進学講習への活用を一層推進する。			
SA（スーパーアドバンス）コースの充実		週34時間授業やサタデースクール、サマーセミナー、スプリングセミナー、模擬試験、地域研究講座ならびに大学教授による出前講義など、SAコース全員参加の行事を、3カ年を見据えて計画的に実施し、生徒の進路意識の高揚と学力向上を図る。			
		学習の記録表を定期的に記入することで日々の努力を視覚化して学習への意欲の喚起を図る。			
		各教科においては、3年間を見通した教科指導プランを作成し、いつどの時期にどのような内容・レベルの指導を展開するか、教科全体で共通の認識を持つ。			
サタデースクールの充実		原則、月2回以上実施することにより、平日以外も学習する習慣の定着を図る。			
		各教科と連携し、1日につき2科目の講座を開講することにより、大学入試等を突破できる確かな学力の土台をつくる。			
志望校検討会議の充実		学年および進路指導部と連携して、大学進学希望生徒の掘り起こしを行う。			
		農場部と連携して、食品科学科生徒のより高い進路希望の実現を目指した指導を展開する。			

評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題
11 事務部	学校経営という視点を持った予算の執行	・特色ある学校づくりを進めるため、各部分掌会議や各種事業等と積極的に連携を図り、財政的な面から学校運営の一翼を担う。		
		・学力充実・向上のための予算の重点的な措置		
		・スピードとタイミングを重視した予算執行		
	学校理解を深める広報活動	・玄関モニターによる外来者向けに情報発信		
		・メールニュースを利用した事務部からの情報発信		
		・説明会等において、保護者向けに情報発信		
	安心・安全な学校環境の整備	・常に課題意識や危険意識をもった施設設備の維持管理		
		・危険箇所の早期発見、対処		
		・清潔な学校環境を保つ清掃管理		
12 国語科	「リスタディ」を基軸とした基礎学力定着と学力伸長	日常的な小テストを中心に基礎的な国語常識の定着を図り、言語表現を豊かにさせる。		
		的確な頻度で課題に取り組みせ、家庭学習習慣の定着を図る。		

		「SA」クラスの授業を中心に、各コースとも進路実現に必要な学力を定着させ、卒業後にも活用できる問題解決能力を伸長させる。			
	生徒の進路実現に向けた「ことばの力」の伸長	授業内で「書くこと」「話すこと」の言語活動を充実させ、基本的な「ことばの力」を伸長させる。			
		各種論文コンクールへの応募にあたり、きめ細かな指導を行う。			
		個人添削や進学講習、サタデースクールを充実させ、各生徒の希望進路に応じた「ことばの力」を伸長させる。			
	教員の授業力向上	生徒の基礎学力を保障する授業実践に向けて教材研究を進め、きめ細やかな指導を目指す。			
		研究授業や公開授業、教科研修などとおして、授業実践についての意見や情報交換を行う。			

評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題
13 地歴・公民科	基礎学力の向上	・ 単元ごとの復習や、小テスト等の実施により、基礎知識を身に付けさせる		
		・ 毎時間の狙い、到達目標を明示し、学習意欲を向上させる。		
	進路実現に向けた学力の向上	・ 進学補講や進路希望に応じた個別指導などの実施により、進路実現に向けた学力を身に付けさせる。		
		・ 定期考査の内容を精選し、基礎学力の確認とともに、入試等に対応した問題を作成する。		
	社会で活躍できる資質を身に付けさせる	・ 各科目において、現代社会との接点を重視し、生活と密着した授業を展開する。		
		・ 調べ学習等で、生徒が主体的に取り組む力を養う。		
・ ICTを活用した授業をおこなう。				
14 数学科	より高い進学志望に応える学習指導	・ SAコースやアドバンス文理コースに対する指導を充実させる。		
		・ 個々の進路希望に応じた進学講習やサタデースクールを充実させる。		
		・ 進研模試受験者の全国偏差値を年間を通して向上させる。		
14 数学科	卒業や進路保障を実現する学習指導	・ 必要に応じて義務教育段階の学習内容も復習し、授業に向かう姿勢を身につけさせる。		
		・ 提出課題を必ず出させきる指導を行う。		
		・ 考査に向けて学習する習慣をつけさせるとともに、学習が不十分な場合は、再テストを活用し学び直しをさせる。		

生徒の学ぶ意欲を高める学習指導	・問題集を1冊やりさらせる。			
	・「須高数検」を実施し、検定への意欲を向上させることにより、「数学検定」を校内実施できるようにする。			
	・ICT機器やスタディサブリの活用法を研究する。			

評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題
理科	科学的な考え方を身につけさせる	・実験や観察、実習を積極的に取り入れる		
		・興味・関心を引く教材・指導方法の工夫する		
	基礎学力の定着と進路実現に向けた学力の向上	・基礎補習や課題等により、基礎学力の定着を図る		
		・進学補習や進路希望に応じた個別指導などにより、進路実現につながる学力の充実を図る		
保健体育科	社会性や協働性を身につけさせる	・場に応じた態度（言動や身だしなみなど）を身につけさせ、規律ある授業（学校生活）を送らせる。		
		・運動する内容を生徒に計画させた上で積極的に活動させることで、他者を思いやる心を育み、協力して運動を楽しむことを学ばせる。		
	体力と精神力の向上を図る。	・授業始めのウォーミングアップや「体力を高める運動」を通して体力と精神力を向上させる。		
		・何事にも継続して行うことの大切さを伝え、達成感を味わわせる。		
	生涯体育に向け、体育の知識・理解を深めさせる	・生涯を通じて運動に親しむために、生徒が自ら考えて運動が実施できるよう選択授業を通じて指導を行う。		
芸術科	芸術のあり方と生活とのかかわりに関心をもたせ、生涯にわたり芸術文化に親しむ態度を育む	・将来につながる芸術の可能性を示すことで目的意識をもたせ、親しみやすく、興味・関心が一層深まる教材の工夫に努める		
		・作品発表や演奏発表をとおして、自分の個性も他者の個性も認め合うことで自己肯定感を高めさせる		
	自分なりに言葉で表現し的確に想いや考えを相手に伝える力を身につけさせる	・作品発表や演奏発表の機会をつくり、自分の想いや目標を文章化して具体的に表現させる		
		・自らの気持ちがよりよく伝わる言葉遣いや相手を思いやる気持ちを身につけさせる		
生活習慣を見直す意識をもたせる	・実技の技能を磨くことは自分自身を磨くことであるということを伝え、生活習慣を見直すきっかけをつくる			



18 英語科	個々の生徒の進路希望に応える学習指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>食品科学科も大学進学希望に対応できるように1年から3年まで習熟度別授業を実施。</li> <li>普通科でも習熟度別授業を活かし、SA、発展講座では上位層が難関大学を受験できる実力を養成する。</li> </ul>			
	卒業や進路保障を実現する学習指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>少人数講座、学習項目の精選や進学補習によって、生徒の基礎学力定着を図るとともに、上位層だけでなく下位層に対しても進級や追認考査等の指導を充実させる。</li> </ul>			
	生徒の学ぶ意欲を高める学習指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>「須高英検」「英検」を受験することで達成感を育む。</li> <li>デジタル教材作りを充実させる</li> </ul>			
19 家庭科	主体的な「生活者」の視点から、必要な知識や技術を身につけて、生活面で「自立」し、異なる世代の人々と「共生」する意識を持ち、自分らしい生活を「創造」していく力を養う	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分自身の生活を見直し、工夫・改善できるような学習課題に取り組ませる</li> </ul>			
		<ul style="list-style-type: none"> <li>高校卒業後の生活を具体的にイメージしながら、自立に向け日々の家庭生活に役立つ内容を取り扱い、実践できる力をつけさせる</li> </ul>			
		<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒自身が考えながら取り組める内容の教材や、視聴覚教材を作成し、意欲的な学習姿勢を持続させられるような指導方法を工夫する</li> </ul>			
		<ul style="list-style-type: none"> <li>授業プリント・実習プリント・作品等の提出指導を徹底する</li> </ul>			
		<ul style="list-style-type: none"> <li>短時間でも達成感を味わえるような実習内容になるよう工夫・研究する</li> </ul>			

評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題
20 農業科	生徒の学習意欲の喚起につながる授業の展開により、専門的な知識と技術を身につけさせる	<ul style="list-style-type: none"> <li>より具体的で分かりやすい授業を展開する</li> </ul>		
		<ul style="list-style-type: none"> <li>社会人講師を計画的に招き、専門知識や技術を深化させる</li> </ul>		
		<ul style="list-style-type: none"> <li>資格取得を一層推進する</li> </ul>		
	生徒の進路意識の高揚を図る	<ul style="list-style-type: none"> <li>個別指導を徹底し4年制大学への進学率を高める。</li> </ul>		
		<ul style="list-style-type: none"> <li>担任との連携を強化し、生徒の進路実現を図る。</li> </ul>		
		<ul style="list-style-type: none"> <li>専門教育を通して生徒の進路意識を高める。</li> </ul>		
	食品科学科の特色を生かした取組を推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>京丹波町との連携事業を一層充実させる</li> </ul>		
		<ul style="list-style-type: none"> <li>指定事業の取組により、生徒の主体的な活動を推進する</li> </ul>		
		<ul style="list-style-type: none"> <li>他校種間連携を推進する</li> </ul>		
		<ul style="list-style-type: none"> <li>富士フィルムグリーンフェンド助成金を有効に活用した授業展開を推進する。</li> </ul>		

評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題
21 情報科	情報技術を生かす豊かな感性、道徳心を身につけ、社会を担う責任を自覚し、人、社会とをつなげるコミュニケーション力のある生徒の育成。	<ul style="list-style-type: none"> <li>ビジネスマナーの必要性を自覚し、他人を思いやり自己を育む豊かな感性を育成する。また、進路部と連携し就職希望者を対象に「ビジネスマナー」補習を行うなど、生徒の進路実現にむけたサポートを行う。</li> </ul>		
		<ul style="list-style-type: none"> <li>高度情報通信社会に参画するため、個人情報保護し、無形財産権の保護やネット犯罪に巻き込まれないための知識を</li> </ul>		

		学ぶことで、社会 を担う責任と自覚を育成する。			
		・授業に積極的に参加する態度を育て、ノート作成指導や実習課題の提出の徹底を図る。			
	「土から食卓まで」農業の6次産業化を推進し、産官学連携授業を発展させる。	・産学連携授業を積極的に推進し、協力企業や生徒間のコミュニケーション能力や情報受信能力を育成する。また、問題解決に向けた問題提起などを行うことにより情報発信能力を育成する。			
		・3年間を通して、社会とつながりのある生徒育成を推進する。			
	地元地域を元気にする取組により生徒を育む。また、自らの目標を実現するため、失敗を恐れず挑戦し、健康でたくましく生きる生徒を育成する。更に、担任及び家庭との連絡を密にすることで、自らの責任を全うする姿勢を養う。	・自分の進路に応じた資格取得に挑戦し続ける姿勢を育む。			
		・さまざまな論文コンテストやビジネスプランコンテストなどに挑戦することで、21世紀の社会に夢と希望を持ち、地元地域を元気にする姿勢を養うとともに、自らの考えを発信する姿勢を育成する。また、普段の学習の成果を、さまざまな競技会に出場することで、自分の限界に挑戦する姿勢を育む。			
		・課題未定者は、担任と連絡を密にとることで、自ら課された課題に責任を持ち取り組む姿勢を育てる。			

評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題
22 総合的な学習の時間	1年 『人間としての在り方・生き方を考える』	・自己PRの発表などに取組んだり、地域について学んだりすることで 自己の在り方や生き方を考える。		
		・読書や映画鑑賞を通じて、生き方について学ぶ。		
		・課題発表や課題作成を通して、資料の収集・整理・発表の方法、技術を身に付ける。		
22 総合的な学習の時間	2年 『沖縄に対する理解を深める』 『進路を考える』 『茶道体験』	・沖縄研修旅行と関連づけ、沖縄についての調べ学習を行い、沖縄への理解を深める。		
		・社会や職業に関心を持ち、自らの進路を主体的に考える態度を育成する。		
		・茶道体験を通して、日本の伝統文化についての理解を深める。		
22 総合的な学習の時間	3年 『進路について考える・現代の諸問題について考える』	・進路学習を通して職業観・勤労観を育て、希望する進路の実現を目指す。		
		・社会の様々な問題を学習し、人間としての在り方生き方を考える。		
		・様々な情報を整理したり、自分の意見をまとめ、表現する力を育てる。		

学校関係者評価委員会による評価

次年度に向けた改善の方向性